

## エピソード

# 『難しいんだよね』 5歳児 11月 伏見こども園

AくんとBくんは、一学期からトイを使い、いろいろな形のコースをつくり、ビー玉の転がり方を楽しんでいます。この日は、脚立やつみころの段ボールを土台にしてトイをまっすぐ繋げ、ビー玉を転がすのかと思うと、二人はコースの終わりの地面に座り込んでいました。トイの先の地面にはセロハンテープの芯、コップ型の型抜き、すぐく部分が四角く柄の長いスプーンがありました。①「それをどうするの？」と尋ねると、Aくん「(転がってきた)ビー玉をスプーンに入れようと思って」Bくん「ここまでビー玉が転がったときに上からスプーンを落として入ったらオッケー」と答えました。①「それは難しそうやな」と言うと、二人は「そうなんだよね」と言いながら、下から芯・逆さにした型抜き・スプーン(下向き)の順に置き、大きなビー玉をスプーンのすぐ部分の上に落とし、スプーンがトイを転がってきたビー玉をキャッチできるような仕掛けを考えていました。①「ビー玉がここまで転がってきたときに大きいビー玉を落としてスプーンに入れるってこと？」Aくん「そうなんだけど、スプーンが落ちちゃってバランスが難しいんだよね」と話していると、Bくんが「これで押さえる？」とダブルクリップを持ってきました。Bくん「いいね。あ、これ(S字フック)もちょうどいいかも」と、スプーンの柄にダブルクリップとS字フックを付けてバランスを取り、型抜きから転がり落ちないようにしました。Aくん「Bくん、ちょっと転がしてみて」Bくん「わかった」と、Bくんがビー玉を転がすと、Aくんはタイミングを見計らい、大きなビー玉をスプーンに落としましたが、スプーンがまっすぐ落ちず、ビー玉はスプーンには入りません。Aくん「あ～、無理。交代してみよう」と今度はBくんが転がし、Aくんがスプーンを落としてみますが、思ったようにスプーンが落ちずにビー玉は入りませんでした。「またダメだ」と、言葉では残念そうにしていた二人でしたが、すぐに「しっかり支えた方がいいのかも」と、大きめの洗濯バサミを持って来て、スプーンの柄に挟み、安定するように考え、何度もバランスを調整したりビー玉を転がしてみたりして、試していました。

## 子どもの育ちや学び



どうやって置いたらいいかな(試す)(調整)

## クリップはどう？(提案)



これならいいけるかも(期待)



うまくいかないな(失敗)(残念)



安定しないからかな(予想)(原因の追究)



スプーンを支えてみよう(諦めない)(試行錯誤)

## 保育者の思い

・一学期はやりとりしながらも、それぞれのコースを隣に並べて楽しんでいたAくんとBくんが、二学期になり、二人で考えながら一つのコースをつくり、ビー玉を転がすことを楽しむようになっていました。その中で、気付きや面白さを共有していたので、今日はどんなことを考えているのかなと、聞いてみました。

・繰り返し転がし遊びを楽しみ、いろいろな用具を使ってきたことで、「難しい」とわかっていることにも「これを使ってみたらどうだろう」「こうしてみたらできるかもしれない」と期待したり予想したりしながら、やってみようとする姿につながっているのかな、と思いました。

・思ったようにスプーンにビー玉が入ることはありませんでしたが、試行錯誤することを二人で楽しんでいて、うまくいくことだけが「楽しい」わけではないのだな、と感じました。

## 家庭だったら

日頃の生活で使っている用具(今回だとスプーン・ダブルクリップ・S字フック・洗濯バサミ)も子ども達にとつては遊びのきっかけや仕掛けになります。固定概念にからわれず、いろいろな使い方と一緒に考えてみると面白い発想に出会うかもしれませんね。